



第 1717 号

(本年度 3 号)

2018年 7月31日

発行責任者 安田和広

編集責任者 教宣部

## 福島支部第33回定期大会 大会宣言

**JR東労組の未来に希望を見出し、再結集できる組織を目指して職場からたたかいをつくりだす決意！**

### 大会宣言（案）

私たちは本日、「コラッセ福島」において第33回定期大会を開催し、失った信頼を取り戻し、組合員に寄り添った新たなJR東労組運動を全組合員でつくり上げる方針を全体で確認した。

今春闘での「格差ベア根絶」「あらゆる戦術行使も辞さず」とのたたかいの方針は多くの組合員を悩ませ、不安や不満が重なり信頼を大きく失った。さらには労使共同宣言の失効通告で加速度的な脱退を生み出し「大敗北」を喫したことを反省しなければならない。

私たちは、「新生JR東労組」として生まれ変わる。組合員の現実をしっかり向き合いながら、嘘やごまかしがない、組合員と共に歩む運動をつくりあげていく決意である。そして新たな方針と体制で船出した本部、そして仙台地方本部と共に歩み、脱退を余儀なくされたみなさんが、JR東労組の未来に希望を見出し、労働組合の必要性を心から感じ、再結集できるよう地道なたたかいを福島支部内の全ての職場から、全組合員の総意でつくり出していく。また、職場の安全・安心な業務運営を阻害する様な事象については、職場からのたたかいを基礎に議論をし、業務に専念出来る環境を構築していく。

現在、鉄道妨害が多発している。郡山駅構内で発生した留置車両の流転や事務所の不審火など、命をも奪いかねない行為を決して許してはならない。お客さまと組合員の命を守るために、鉄道妨害の一掃へ向けた体制を更に強化していく。一部マスコミ報道では内部犯行説を流布している。福島駅ケーブル切断事件を教訓に、警戒心をもって、これまで築き上げてきた鉄道の安全を社会に訴えていかなければならない。

私たちの働く福島・東北は厳しい時代をこれから迎える中で、会社は人口減少や社会構造の変化に対応すべく様々な施策を提案してきている。私たちは「新たな30年を展望する施策実施に向けた確認メモ」を基礎に組合員との対話を通じた要求の練り上げ、安全には決して妥協しない風土を確立し、「安全・健康・ゆとり」を担保に「働きがい」をつくり出しながら施策に対して真摯に向き合っていく。そして、地域のみなさんとの連携で様々な観点から考え、未来へ向けて地域の活性化をめざし、地方交通の維持・発展、そして、労働組合の社会的責務を果たしていく。

今こそ労働組合主義に徹し、JR東日本の発展と組合員、家族の更なる幸せを全組合員で実現していこう！

以上宣言する。

2018年 7月28日

東日本旅客鉄道労働組合 福島支部第33回定期大会



**JR東労組 東北三地本ホームページ**

こちらからも東北三地本・JRバス東北本部の最新情報をご覧ください